

2023.3.29

塩野義製薬株式会社

澤田 拓子

「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」フォローアップに関する意見

① 新しい資本主義に関する考え方

- ・官民が連携して GX 等の社会的課題に着目し、個別の取り組みを進めることは重要。他方、機関投資家からの還元要求の高まりが認められていることから、フォローアップに向けた課題は、マルチステークホルダー主義に基づく中長期的経営という考え方を、戦略全体の底流に据えることであり、正面から取り上げていただきたい。
- ・上記の観点から言えば、四半期開示制度の見直しは大きな一歩。今後、企業が創出する付加価値の「地域社会」「従業員」「顧客」等への分配にあたって、バランスのとれた目配りを企業に促していくためにも、コーポレートガバナンス・コードのあり方を含めた見直しが必要。
- ・経済安全保障における成長とレジリエンスの両立に向けた、投資規模等のスケールアップによるわが国の原価構造の改善、および部材等の安定供給の確保に資する取り組みの検討が必要。

② 人への投資

- ・働き手側には、主体的に自分の価値を上げるという考えを持ち続けることが重要であり、また、スキルだけでなく倫理や哲学、人間力も必要な要素。
- ・こうした素地を育むために、国として中・高からのキャリア教育の充実をはかり、その際、企業人も協力する仕組みづくりを進めていくことが重要。

③ 科学技術・イノベーション

- ・バイオモノづくりは、カーボンニュートラルや社会課題の解決に向けて極めて有用な技術であり、大企業、中小企業、スタートアップ、アカデミアがそれぞれ取り組みを進めている。強化領域内においても、経済安全保障上必須であるものや日本に強みのある分野、特にプラットフォームになりうる技術研究を特定し、集中的支援と社会実装に向けたインフラ設備等に対する支援のさらなる強化が必要。

④ スタートアップ

- ・スタートアップの育成には、中長期のスパンでの支援が必要。また、IPO 偏重ではなく、市場価値をいかに高めたかを評価する仕組みを求めたい（5 年を目安とすることは特にライフサイエンス系では困難であり、10 年の期間を見る必要性あり）。

- ・大阪・関西万博において「Global Startup EXPO」の開催が予定されている。万博を弾みにして、海外のスタートアップやV C等の呼び込みを行い、日本のエコシステムをアップグレードし、万博のレガシーの一つとしてその後につなげていくことが有用。
- ・日本としての知財戦略が重要。知財に関して、大学やスタートアップの知財を主に海外からの侵害から「保護」するための、知財訴訟の判例データの集約や関連法制の見直しなどの検討が必要。

⑤ DX

- ・ヘルスケア分野をはじめとするデータの利活用を加速させるためには、データ仕様の統一化だけでなく、European Health Data Space などにみられるような法的整備や規制整備も合わせた体系的整備が必要であり、加えてオープンデータの整備、官民協働での利活用など、政府のリーダーシップのもと、さらなる戦略的な取り組みが必要。
- ・DX や AI 実装を支えるデジタル人材の不足が深刻化している。欧米に劣らないデジタル教育（コンピュータサイエンス、データエンジニアリング、データサイエンス）プログラムの構築を進め、人材の確保と高度化を進めるべき。

以上